

マグちゃん通信

2019 2-3 vol. **54**



絵本作家インタビュー
いわいとしお
特集 世界をひらく

寄贈絵本のご紹介

ご寄贈いただいた最新絵本の中からスタッフのおすすめの絵本をご紹介します。



『オレゴンの旅』
ラスカル/文 ルイ・ジョナス/絵
山田兼士/訳
らんか社



『どんどんぱし わたれ』
こばやしえみこ/原案
ましせつこ/絵
こぐま社



『かんけり』
石川えりこ/作
アリス館



『ねこのびと クリスマスをどけよう』
エリック・リットマン/作 ジョーム・ディーネ/絵
大友 剛/訳 長谷川義史/文字画
ひさかたチャイルド



『やきいもや ゴジラ』
ながいくこ/作
くすはら順子/絵
ポプラ社



『鹿踊りのはじまり』
宮沢賢治/作
ミロコマチコ/絵
ミキハウス



『そらはあおくて』
シャーロット・ゾロトウ/文
なががわ ちひろ/訳 杉浦 さやか/絵
あすなろ書房

「おかあさんが こどものころって、いまと なんだか ちがうのね。」女の子が古い写真を見て言いました。空は青くて、草は緑…、大切なことは、お母さんやおばあちゃん、ひいおばあちゃんが女の子だった頃と少しも変わっていない、女の子が大人になっても変わらないと、お母さんは答えます。

隅々まで丁寧に描かれた絵が、膨大な時の流れを語ります。ちゃんと前を向いて歩き出したいくなる1冊です。

絵本館日記

11月8日(木)

先日行われた「いのちの絵本」に参加した友人からメールが届きました。大地さんが朗読された絵本「クロコダイルとイルカ」を声に出して読んで、何度読んでも胸がキュンとなり、読むごとに小さな発見があるとのこと。いつか、誰かに読んであげたり紹介したりしたいと結ばれていました。

11月16日(金)

カフェギャラリーで数峰峰子さんによる「刺繍プロッチ展」ふしぎな生きものたち」がはじまりました。ある時、お話を聞いた方の胸元を飾るカラフルな鳥のプロッチに目が留まりました。聞けばご友人のお手製とのこと。もつと見たい！というワタクシの願望が本展につながり、ひとりほくそ笑んでいるわけです。

11月23日(祝・金)

「さむイカ」さむイカ、いかつ、いかつ、へい！11月も半ばを過ぎ、日に日に寒さが募ってきました。そんな時はいかたろうのいかダンスで寒さをふっ飛ばしませんか？大分県由布市内の廃校をアトリエとして活動している「ザ・キャビンカンパニー」はご夫婦ユニット。絵本原画展ははじまっています。

12月9日(日)

クリスマスコンサート。ライブラリーの「こよみ」の棚にはクリスマスの絵本がたくさん並んでいます。毎年新しいクリスマス絵本が出版されますが、私のお気に入りには2016年出版の「おとうさんのクリスマスプレゼント」スギヤマカヲノ/作(赤ちゃんとママ社)。じんわりとやさしい気持ちになります。

12月22日(土)

冬至を祝う風習は世界各地にあるといわれます。日本では健康を願ってかぼちゃを食べたり、ゆず湯に入ったりします。ともあれ、一年で最も昼が短く夜が長いこの日を境に、少しずつ足が伸びていくと思うと前向きな気持ちになります。私にとっては1月1日と同じように、節目を感じる特別な日です。

(記録西)

利用案内

開館時間 9:30~17:30

休館日 毎週月曜日(祝日の場合翌日)
月1回資料整理日
年末年始(12月28日~1月4日)

入館料 大人510円、中学生310円、小学生100円
※団体20名以上は割引あり 団体幼児はひとり50円
※各種福祉手帳をお持ちの方は無料

交通案内 北陸自動車道小杉I.C.より車で10分
富山きとぎと空港より車で40分
あいの風とやま鉄道小杉駅より車で5分
※新幹線はJR富山駅またはJR新高岡駅下車
富山地鉄バス・富山高岡線「赤井口」下車徒歩7分

駐車場 約60台

フリーパス
個人フリーパス 年間1000円
親子フリーパス 射水市在住で、小学生未満のお子様の保護者の方は無料
いみず子どもフリーデー 射水市在住の小中学生は土・日・祝日に限り無料

貸館 カフェギャラリー、シアターは貸しスペースです。個展、コンサート、発表会などにご利用ください。
講座 絵本作りや読み聞かせ、講演などの出前講座を行っています。



射水市大島絵本館
OSHIMA MUSEUM OF PICTURE BOOKS
マグちゃんは絵本館のシンボルマークです

〒939-0283 富山県射水市鳥取50
TEL 0766-52-6780 http://www.ehonkan.or.jp
FAX 0766-52-6777 E-mail ehonkan@po9.canet.ne.jp

いわいとしお

子どもたち自身が空想したり
絵を描いたりする面白さに
目覚めてくれたらいいな



いわいとしおプロフィール

絵本作家／メディアアーティスト

1962年、愛知県生まれ。1987年筑波大学大学院芸術研究科修了。

テレビ番組やゲームソフト制作などで幅広く活躍ののち、娘との手作りおもちゃをきっかけに絵本制作を始め、現在に至る。2008年刊行の『100かいだてのいえ』は、子どもたちに大人気となり、シリーズ累計発行部数300万部を数える。現在、絵本を通して、子どもや親子にもものづくりの楽しさを伝えるワークショップを多数開催している。

主な絵本に『100かいだてのいえ』シリーズ（偕成社）、「どっちがへん？スペシャル」（紀伊國屋書店）、「ゆびさきちゃんのだいぼうけん」（白泉社）、「ぼく、ドジョウ。」（小学館）など。

絵本原画展開催
平成31年2月2日（土）～3月28日（木）

原画展示絵本



「100かいだてのいえ」
（偕成社）
100階建ての家のてっぺんにすむ誰から、遊びにきてねと手紙をもらったトチくん。地図を見ながら歩いていくと、急にその家は現れました。とにかく中に入ってみることにしたものの、この家にはいったい誰が住んでいるのでしょうか？



「その100かいだてのいえ」
（偕成社）
ある寒い雪の日のこと、おなかをすかせたシジュウカラのツビくんが見つけたのは、ひとつぶのひまわりのタネでした。「これじゃ、おなかいっぱいにはならないや...そうだなをさかせてたねをふやそう！」ツビくんは、植える場所をさがしに空へと飛び立ちました。

早春のギャラリーでは、ベストセラーとなった『100かいだてのいえ』と、シリーズ最新作の『その100かいだてのいえ』の2冊をご紹介します。緻密に描き込まれた絵をお楽しみ下さい。

いわいとしお先生に
インタビュー

絵本作家になられたきっかけは？

絵本作家になる前は、メディアアートと呼ばれる分野で、デジタルやハイテクを駆使した作品作りをやっていたのですが、2000年に長女が生まれてから、子どものための仕事をしたいと思い始めていました。そこに偶然、編集者の方から「絵本を描いてみませんか？」というメールをいただいたのがきっかけです。その時は、まさか絵本作家が本業になるとは思っていませんでした。

画材は何を使っていますか？

「100かいだてのいえ」シリーズは、アナログとデジタルを組み合わせた作り方をしています。まず紙にペンで絵を描き、それをスキャンしてコンピュータで色をつけます。その画像を印刷所で紙に印刷してもらったものにさらに色鉛筆でタッチを加えて完成させます。コンピュータだと、冷たい感じがするので、最後に手描きの暖かみを加えています。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や
思い出を教えてください。

「100かいだてのいえ」
当時小学1年生になったばかりの長女が、

数の数え方に悩んでいたのを見て、数字をテーマにした絵本をつくってみては、と考えました。数字を何で表現するか考えた末に、建物がいい！と思いついたのが、「100かいだてのいえ」のはじまりでした。

「その100かいだてのいえ」

いま、伊豆に住んでいるのですが、庭にいろんな鳥たちがやってくるので、近くで観察しよう！と、窓の近くにバードテーブルを作りました。そこに置いたひまわりの種を食べに来たシジュウカラを見ているうちに、想像が膨らんでできたお話です。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象
深い絵本は？

やはり、最初の『100かいだてのいえ』でしょう。絵本づくりの右も左もわからずに、そのとき自分の持っている力のすべてを注ぎ込んで、ようやくできあがった、という達成感がありました。発売後すぐに増刷が決まり、あれあれよという間に人気が出てうれしかったんです。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

「100かいだてのいえ」シリーズは、言葉が少なく、絵から読み取ってもらう要素が多い絵本です。ひとつひとつの部屋の中に何があつて、住人が何をしているのか、はつきりわかるように描くのを気をつけています。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

空想の世界で遊ぶ楽しさを、僕の絵本で存分に味わって欲しいと思います。そして、僕の絵本をきっかけに、子どもたち自身が空想したり絵を描いたりする面白さに目覚めてくれたらいいなと思っています。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

僕は、自分が5歳頃に読んだ絵本のことを、いまだに鮮明に思い出せます。そのときのドキドキワクワクした感じを、いまの子どもたちが感じてくれるような絵本を描いていきたいと思っています。

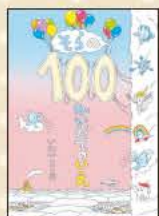
ご趣味についてお聞かせください。

子どもたちと一緒に絵を描いたり、手作りおもちゃを作ったりする時間を楽しんでいます。自分のものづくりの原点に立ち返る大事な機会になっています。

ファンの方へメッセージをお願いします。

現在『100かいだてのいえ』シリーズの新作を構想中です。期待して待っていてください！

いわいとしお先生、ありがとうございました！



「その100かいだてのいえ」
（偕成社）

いわいとしお先生のサイン入り 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年齢、住所、電話番号をご明記のうえ、
ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
いわいとしお サイン本プレゼント係
締め切り 平成31年3月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。

3/24日 いわいとしお先生が 来館されます！

■ワークショップ
10:00～12:00（要入館料+材料1個200円）
「ダンボールでつくろう！ 100かいだてのいえ」
材料100個まで先着順（2/2（土）申込受付開始）

★ワークショップ終了後にサイン会を行います。（ワークショップに参加された方対象）いわい先生の絵本をご持参ください。
サインはおひとり1冊に限らせていただきます。
（詳細は絵本館までおたずねください）

おしま手づくり絵本 コンクール2018 結果発表

応募総数868点(園児117点、小学生340点、中学生411点)から31名の入賞者と48名の入選者が決定しました。
みなさん、おめでとうございます!!



最優秀賞 山村拓矢 『どっちでもいいよ』 [小学生の部] 山村 拓矢 (富山県射水市立小杉小学校5年)	金賞 石山ののどか 『はなびとよるこび』 [中高生の部] (新潟県立上越総合技術高等学校3年)	金賞 池田 譲 『きょうりゅうランとミキのぼうけん』 [園児の部] (富山県藤ノ木こども園年長)	金賞 小山 樹 『タツノコ』 [小学生の部] (富山県富山市立呉羽小学校6年)
銀賞 山田 理香 『いづかたにんじん』 [中高生の部] (富山県立高岡商業高等学校1年)	銀賞 大須賀 優子 『おはなばたけとちようちゃん』 [園児の部] (静岡県浜松市立保育園しずおか絵本クラブ年中)	銀賞 吉野 遼 『太ようのかげらと金ちゃん』 [小学生の部] (富山県富山市立藤ノ木小学校2年)	吉田力賞 大島南部保育園 ひまわり組 『ゆめみるえんそく』 [園児の部] (富山県射水市立大島南部保育園年長)

創作教室レポート

『ぼくもわたしも陶芸家』 11/17・18



毎年人気の陶房「匠の里」での創作教室。先生に教わりながら干支の猪を親子で協力して作りました。粘土をのべたり、カラー粘土で飾り付けをしたり、同じ型紙からでもそれぞれ個性がキラリと光る猪に。無病息災の象徴である猪を飾って良い年となりますように!

見た目は同じような黄土色の粘土なのに、焼きあがると白や青、ピンクなどに変わるのが不思議でした。また陶芸をしてみたいです。(H.Rさん・5歳)

匠の里は初めてだったので、また来て違うものも作ってみたいです。とってもかわいくできたので玄関に飾りたいです。(H.Hさん・11歳)

★創作教室は親子で「つくる」ことを楽しむ教室です。
〈登録家族募集中!〉

イベントレポート

いのちの絵本 11/4



今年で12回目を迎えた「いのちの絵本」。おなじみ村上信夫アナウンサーと映画「じんじん」シリーズで人気の俳優・大地康雄さんが絵本朗読とトークを繰り広げました。

大地さんはかつて絵本とは縁のなかった人生でしたが、北海道のけんぶち町で読み聞かせ中の子どもの表情の豊かさにおどろき、絵本の凄さを実感。以来、様々な出会いを通し、絵本が結ぶ絆の強さ、大切さを確信されました。この日は映画から生まれた絵本『クロコダイルとイルカ』(「じんじん」制作委員会)、『雲をつかむはなし』(パイプライン)などを朗読。「撮影以外で人前で絵本を読むのは初めて」と緊張しておられましたが、その人情味あふれる温かな語りは一人心の隅に暖かく届きました。

村上さんは「さがしています」(童心社)、『二番目の悪者』(小さい書房)などを朗読。戦争体験者から話を聞く機会が失われつつあることや、8月6日が何の日か知らない若者が増えていることへの危機、また情報に惑わされることなく自分から真実を探すことの大切さを語りました。



4・5月イベント

シアター・パフォーマンスホール
絵本館ともまつり

■とき/ゴールデンウィーク
ミニステージや絵本プレゼントなど日替わりで楽しいイベントを開催。
■ばらの香のコンサート
■とき/5月19日(日)14時~15時30分
■出演/吉田春代(フルート)ほか
■料金/大人1000円・3歳以上400円
フルート、ハープ、箏の演奏ほか、絵本朗読もお楽しみに。
来場者にバラを一輪プレゼント。

■カフェギャラリー
■佐伯教通 漆展
■とき/3月30日(土)~4月14日(日)
■田中千賀子 スケッチ展
■とき/4月17日(水)~4月30日(火)

the tie展

■とき/5月1日(水)~5月15日(水)
■NO Shirokuma NO LIFE展
■とき/5月16日(木)~5月30日(木)

ギャラリー

■荒井真紀 絵本原画展
■とき/3月30日(土)~5月30日(木)
■展示原画
「チューリップ」(小学館)
「あさがお」(金の星社)



特集 / 世界をひらく



田中史子
デフォー子どもの本の古本屋 店主

新年明けましておめでとうございます。私はデフォーという子どもの本専門古書店を営んでいます。
赤ちゃんと高校生までの本を扱っていますが、店内で最も多いのは絵本で、いくつかのジャンルに分けて並べています。
一番多いのは「ものがたりの絵本」で、その他「赤ちゃん絵本」「昔ばなし絵本」があり、それらは入口正面の目立つ棚に並べ、お客様の関心も高い本たちです。
反対側の棚には「ちしきの絵本」を並べています。恐竜から虫まで様々な生きものの本。出産や病気、眠りなど人の体の本、植物の本、富士山の本、月や星の本...
理科や算数の分野以外にも、マゼランやリビングストンの冒険の本、第二次大戦中の北欧で国を跨いで疎開した子どもたちを描いた本、さまざまな絵本があります。
芸術の本の棚には音楽や絵画の本が並んでいます。名曲をひとコマ漫画で紹介した「オーケストラの名曲」(小澤一雄作・絵)、副題が楽しい画家別解説本「ピカソの絵本」あつむいてホイッ!「ゴッホの絵本」うずまきぐる(「どちらも結城昌子構成・文」)...
これらの絵本はその道の専門家と画家と子どもの本の編集者が協力して作り上げたものです。子どもたちにこの世界の成り立ちや、自然の不思議、人々の営みを知ってもらいたいという思いが溢れています。大人が読んでも面白い本が多く、小中学生になっても座右において楽しめます。
幼い子にはまず豊富な実体験があればいいと思いますが、それを補うものとして虫や生きものの絵本があれば子どもたちはより

詳しく自分を取り巻く世界を知ることができるといいます。
お母さんの仕事を紹介した「おかあさんはしごとちゅう」(沼野正子作・絵)は様々な仕事や人々のつながりを描いています。身近な食べ物や題材にものができるまでを教える本もありません。
一方物語の絵本でも、過去に取材した本は、子どもたちの今の暮らしとまったく違う世界を描いています。東京で上水道整備以前、多摩川の上流で汲んだ水を売っていた水屋という商売がありました。そこに奉公した少年の話「羽田の水舟」(野村昇司作、阿部公洋絵)。富山で空襲にあった女の子の話。これらは時間をさかのぼって子どもたちの世界を広げてくれます。
また、現代の話でも外国の絵本は、その地では当たり前のことと自分たちの暮らしとの違いを子どもたちに感じさせ、世界に目を向けさせてくれます。
「ハンダのびつくりプレゼント」(アイリーン・ブラウン作・絵、福本友美子訳)を読んでもらった子は、「どうして頭に物を載せて運ぶの?」と尋ねたそうです。戦争で父を失った少女の本「アヤンダ」(ヴェロニク・タジヨ作、ベルトラン・デュボワ絵、村田はるせ訳)を小学一年生の娘に読んだお母さんは「戦争って何?」と聞かれたと言われました。
「なぜ、私達みたいな子どもを描いた本がないの?」という難民の少女の言葉をきっかけにうまれた絵本も出版されています。
日本には子どものための優れた美しい絵本が溢れています。誰かが楽しんだ本が、また他の誰かの喜びとなりますように。

私のおすすめ絵本

『せいめいのれきし』 改訂版 バージニア・パートン/文・絵 いいももこ/訳 まなべまこと/監修 岩波書店 地球の誕生から、古生代、中生代、新生代、人間の時代、現代の生活まで。名作の半世紀ぶりの改訂版。 『ともだちのしるしだよ』 カレン・リン・ウィリアムズとカードラ・モハメッド/作 ダーグ・チャーカ/絵 小林 葵/訳 岩崎書店 難民キャンプで暮らす十歳のリナとフェローザ。救援物資のサンダルを片方ずつ分け合います。	『ぼくはぞうだ』 五味太郎/作・絵 絵本館 僕は大きくて立派な象だ。力持ちで足も速い。けれど写真やテレビじゃ僕の立派さはわからない。いつか本当の僕をぜひ見てくれたまえ。 『きくちゃんのくつ』 平塚美智子/作 織茂 赤子/絵 桂書房 富山大空襲で亡くなった3つ年上のきくちゃん。大好きだったきくちゃんの思い出と大空襲の記憶。	『むしのうんこ』 伊丹市昆虫館/著 角正美雪/構成・文 柏書房 あなあきうんこ、まるべちゃんうんこ、虫のうんこはいろいろ、でもうんこってなに?驚きの利用法も。 『おとうふやさん』 飯野まき/作・絵 福音館書店 豆腐はどんなふうにつくられているのか。身近な食品でものづくりの仕事を紹介しています。
---	--	--